



学校便り「尚徳」1月号  
第496号

鳥取大学附属小学校

平成26年1月14日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



## ランチルームの思い出

副教頭 鈴木 英之

平成26年、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年より、事務室・ランチルーム・生活学習室の中央棟と体育館の改修工事、エレベータ追加工事などでご不便をかけています。特に毎日のお弁当づくりはたいへんだと思います。本当にありがとうございます。

中央棟の2階には慣れ親しんだランチルームがありました。初めて附属小学校に赴任してきたとき、その広さ、正方形に見えるオレンジ色の床と4つのすみれ色のスピーカーの鮮やかさ、音響アンプは音が出るまで時間がかかる真空管などに驚きました。この教室は、1年生と保護者による給食試食会、6年生のバイキング給食、きょうだい学年の交流給食とその名の通り楽しいランチ給食の場として活躍しましたし、年3回の教育実習における実習生の控室、体育の縄跳び練習場としても使われました。また、「実りの学校」は当初、保護者への公開はありませんでしたから、児童同士の発表の場でもありました。

ランチルームは、算数の学習のよい場にもなりました。皆さんはランチルームの縦と横の長さをご存じでしょうか。縦は約10m、横は約8m、高さ約3m、対角線は約12mでした。 $m^2$ やa（アール）などの面積を学習する際、ランチルームは本当に便利でした。巻き尺で縦横を測るだけでなく、1 $m^2$ に貼り合わせた新聞紙を何枚敷き詰められるか、1aの広さを長方形で表すなど、屋内で集中して具体的な操作活動が体験できたのです。机上で長さの実測

と計算のみだと、量感が育ちにくく、面積や立体の大きさの単位に苦手意識をもつ子が多い中、ランチルームでのこれらの体験で、しっかりと量と測定の技能が身につきました。ランチルームの四隅の柱と梁を頂点から出る3本の辺ととらえさせ、大きな直方体の中に見立てて、立体の辺による構成や体積・容積の測定と発展できました。

私は、平成12年に6年生を担当しました。総合的な学習の時間「ちいき」（当時は「にんげん」と呼んでいました）で、平和学習の一環として夏休みに子どもたちと戦時体験学習を計画しました。保護者さんにも手伝っていただき、家庭科室ですいとん作り、疎開生活に習って、ランチルームにご飯を敷いて、雑魚寝の体験をしました。旅の学校以来の宿泊で、子どもたちがなかなか寝なかったことも心に残っています。

肝試しで懐中電灯を持って真っ暗な校内をペアで巡り、理科室に名札を置いていく活動も行いました。理科室では、標本に光を当てたり、人体模型を動かしたりして、保護者の方もノリノリで子どもたちを驚かせておられました。

再び本校に赴任した3年前、8年ぶりに見たランチルームは床がとてもくすんでいました。3日かけてぴかぴかに磨き、ワックスをかけ、もとの鮮やかなオレンジ色がよみがえったときは、とてもうれしくなりました。

思い出のいっぱいあったランチルームは、もうすぐ小中合同の図書館と生まれ変わります。また附属の施設として活躍して、新しい思い出をたくさんつくってくれると期待しています。

## 【学校保健委員会】

12月19日に第2回学校保健委員会（拡大）を開催し、児童の健康課題についての講演会を行いました。今回は、学校眼科医の元村嘉男先生に「子どもの眼の発達と健康」と題してご講演をしていただきました。

「近年、小学生の近視は増加してきているが、原因は、変わりゆく子どもの生活環境による部分が大きい。また、視力低下が進むのは、子どもの成長とともに眼軸が伸びるためである。」などと話されました。そして、近視の予防方法として、次の3点を挙げられました。

- ①子どもの余暇時間はスポーツや野外活動にあて、近くを見る活動を休めること。
- ②背中が曲がらないよう良い姿勢をとること。
- ③バランスのとれた食事や睡眠をとること。

この他、色覚異常についてもお話くださいました。発症頻度は女子より男子に多く、緑色が判別しにくい場合が多いことと、家庭で異常に気づかれたら眼科を受診してくださいと呼びかけられました。

目の健康についても、体の健康と同様に子どもの健康に対する意識を高めていくことが必要

です。学校と家庭がさらに連携をしながら、取り組んでいきたいと思います。



